

事務事業No.	18-	8
事業名	図書館経費	
会計	款	項
一般	10	5
目	4	
施策	3	心豊かなまち
	3-1	生涯学びのあるまちをつくる
	3-1-3	生涯学習の推進
主要施策	②図書館の充実	

① 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	町民（図書館利用者）	目的（対象がどのような状態になっているか）	図書館を中心として町民が様々な学習のできる場を提供する。
事業内容	必要な資料（図書、雑誌、AV資料等）の収集、整理、保存を行うことを基軸として、閲覧サービス、貸出・予約サービス、リクエストサービス、他館との資料相互貸借を行うほか、レファレンスサービス（調べ物のお手伝い）、複写サービス等を行う。不用図書等については年1回「リサイクル会」を開催し有効活用を図っている。 また、子ども読書活動を推進するため毎月2回（第2・第4土曜日）ボランティア団体による「読み聞かせ会」を開催している。			

② 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標名		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	平成31年（目標）
指標	1 町民の利用登録率		85.1	86.0	%	↑	86.0
	2 町民1人あたりの貸出冊数		7.0	7.0	冊	↑	7.1
	3 蔵書回転率		1.7	1.7	回	→	1.7
	4						
	5						
		平成29年度（決算）		平成30年度（決算）	平成31年度（予算）		
全体事業費（千円）A+B				17,759	30,290	29,411	
財源内訳	直接事業費A				17,759	11,144	10,265
	うち一般財源				17,664	11,055	10,212
人件費（千円）B				0	19,146	19,146	
内訳	一般職員（人・千円）				0	1.81	11,946
	臨時職員（人・千円）				0	4	7,200

③ 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善<※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性は高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		町関与の必要性	B 町が担うとともに、町民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30年度の改善計画		③取組の課題	利用者からは、貸出中心の施策に加えて滞在性の向上を求める要望もある。ボランティア団体の会員の減少と高齢化が見られる。
②H30年度に実施した取り組み	読書活動を振興するため、学校教育課の「読書登山」との連携、ボランティア団体による定期的な読み聞かせ会の開催などを行った。	④今後の改善計画	公共施設総合管理計画（個別計画）において対応を検討する。ボランティア団体の新規会員募集を支援する。